

いいださん

でんせつ

【飯田山の伝説】

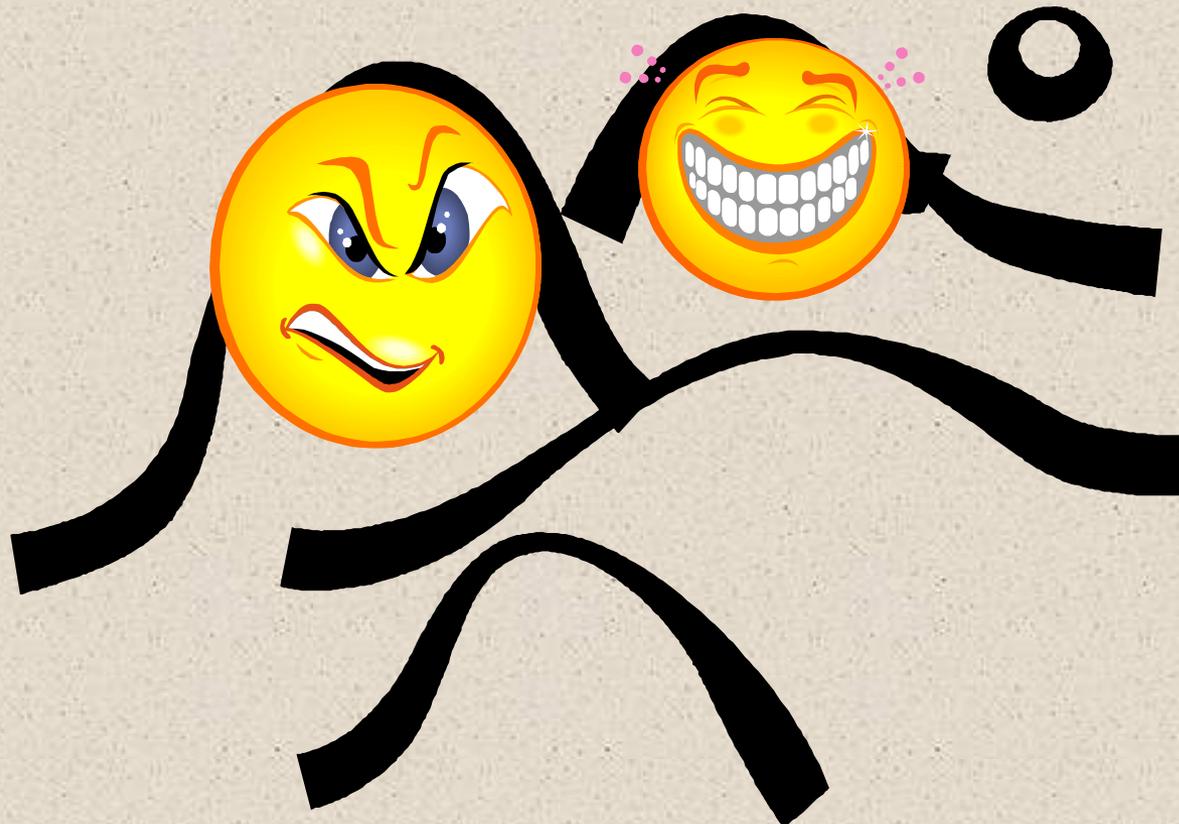


むかし、むかし、飯田山(いいださん)と金
峰山(きんぽうさん)は背(せ)の高(たか)さを
争(あそ)っていました。

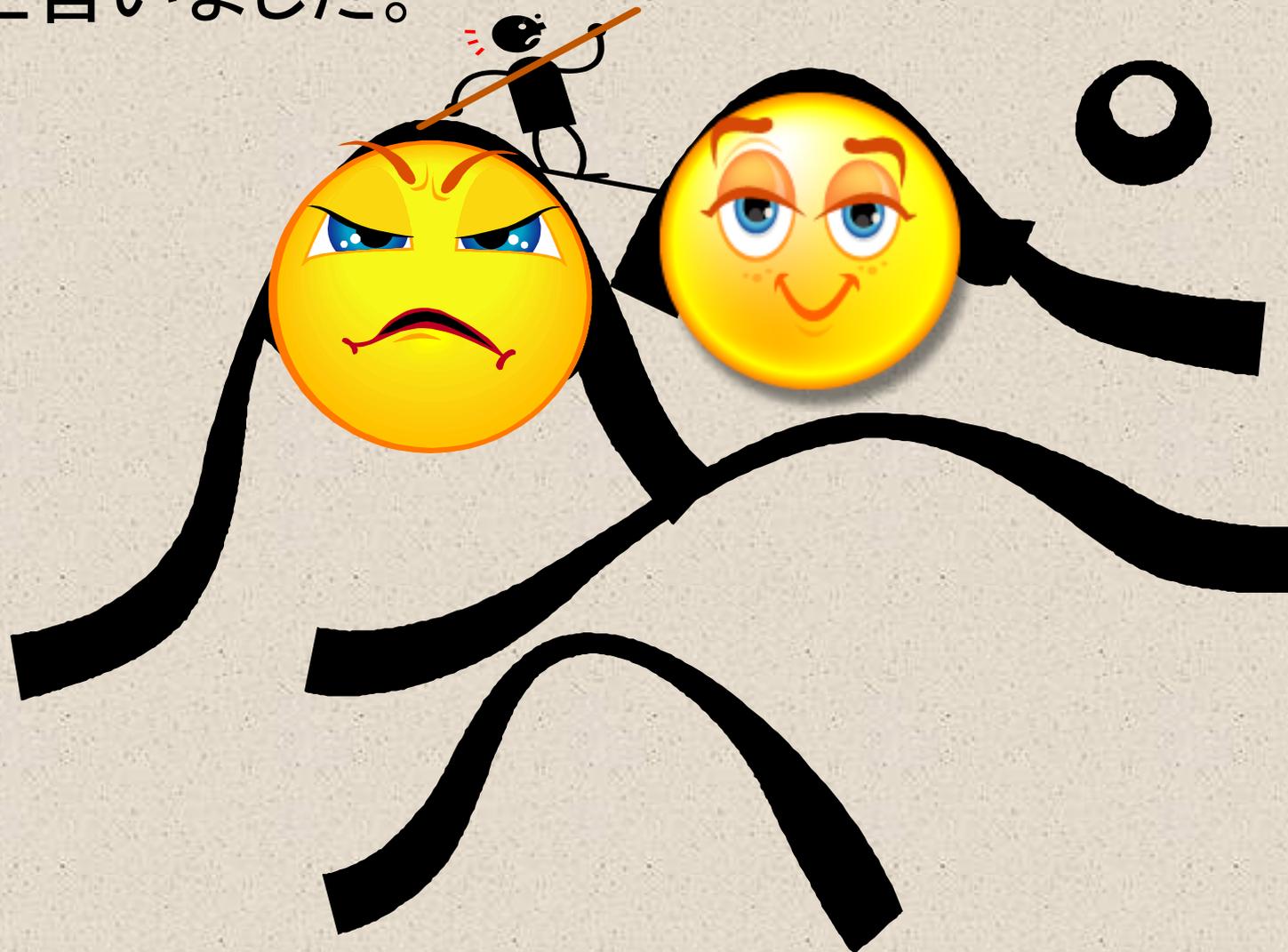


金峰山は「なにをこしゃくな、おれに勝(か)つはずがない」とせせら笑った。

飯田山は「いや自分の方が絶対(ぜったい)に高(たか)い」と言い争った。



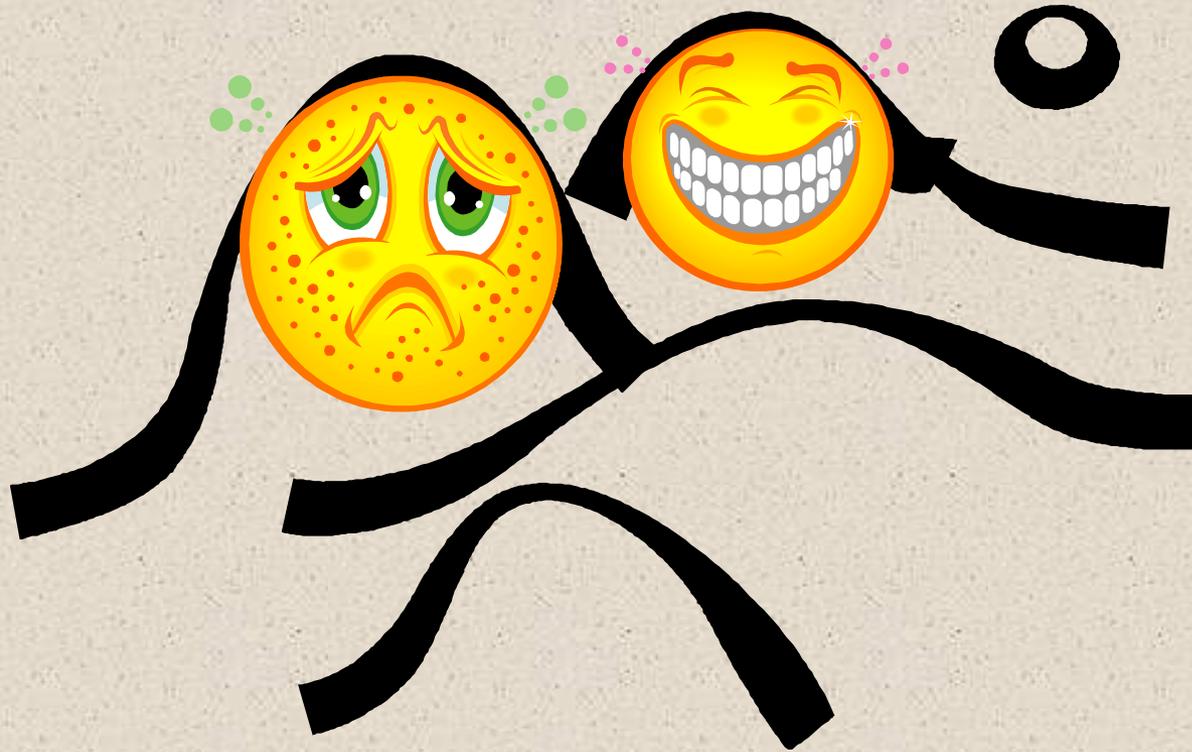
飯田山は「お互いの頂上に樋(とい)を掛(か)け渡(わた)し、水を流し決着をつけよう」と言いました。



樋に水を流してみると、高(たか)さ自慢(じまん)を言い出した飯田山に流(なが)れました。



恥(はじ)をかいた飯田山は、もうこれからは「言い出さん」といった。



それがきっかけで「飯田山」という名になったといわれています。

山には、その時、溜(たま)った水で出来た池があります。



注意事項

- 本編で使用されているイラストはインターネットで配布されているフリー素材のもので、そのため、営利目的等で利用することは作者の許可なくできません。